

議会改革の歩みをさらに進めるために

議会改革の一つとして、昨年の10月に行われた議会報告会に対しては、ご参加下さった皆さんから貴重なご意見をいただきました。

現在、広報広聴委員会でご意見を元に、報告会のあり方について検討しています。

第一に、参加者が少なかったことは、大いに反省しなければなりません。次回は多くの方に足を運んでいただけるよう、工夫していかなければ、と思っております。

議会でのような審議が行われているのかをお伝えし、議会に対する理解を深めていただくのが大きな目的の一つであったにもかかわらず、



第1回の報告会は、4つの常任委員会ごとに開かれ、各委員が分担して報告しました。総務委員会報告で。

「わかりにくい」という感想が少なからずあったことから、研究と工夫が求められています。

他の議会のやり方も参考にしながら、充実した報告会にしていききたいと思っております。

課題には、一つひとつ取り組んでいきます

日本経済新聞社の産業地域産業研究所では、ここ数年、全国の約810市区議会を対象にして「議会改革度調査」を行っております。

H23年は全国で341位、県内39市中15位だった春日部市ですが、24年は全国で240位、県内で8位になりました。少しずつ、改革を進めてきた結果が見えてきています。

しかし、議会本会議のインターネット中継や議事録の公開など、情報公開の分野では平均を上回っていませんが、市民の意見を聴くなど、住民参加の分野はまだ不十分です。

また、基本条例では行なうことができることになった議員間の自由討議をどう実施するのかなど、課題もたくさんあります。

「議会改革検討等特別委員会」では、月に何度も議論の場を設けるなどして取り組んでいます。

さらに改革を進めるために、ご意見をお寄せください。

●継続は力●

昨秋、带状疱疹後の肋間神経痛に悩まされ、議員となってはじめて、議会報告が作成できない、という事態になりました。

そこで、新年にはできるだけ早くお届けしたい、と思っていたのに、いざパソコンに向かうと、エンジンがかからないのです。

「何のために、何を報告したらいいのか」種々の思いがかけめぐって、記事を書いては消し、また書く、という繰り返しの日々でした。

気を取り直して「形から」とレイアウトをいじってみたり……。

継続してきたことは続けなければいけないのだと、改めて気づかされました。

本年は、自分の年齢を自覚し、健康に留意していかなければ、と思っています。

字数に制限のある紙面では、不十分な報告となってしまっていることをお許しください。

ご質問、ご意見がありましたらお聞かせください。



埼玉県内で、「緑の党」と連携していく地域組織「緑の党・埼玉」が結成されました。川越市の川口啓介市議と私の2人で、共同代表を務めています。

薬から育てていくということ

「緑の党 Greens Japan」は、昨年の夏に誕生したばかりの政治団体です。

現在の選挙制度の中では、とりわけ衆議院議員選挙においては、候補者を立てて選挙に取り組むには、高いハードルがあります。まず、小選挙区で候補者1人について300万円、比例区で600万円という世界一高い供託金

があります。また、その選挙区以外の人は投票できない、という限界があります。

参議院議員選挙では、全国比例という枠があり、日本全国の会員が力を合わせて取り組むことができます。

現在、今年の夏の参議院議員選挙に向けて、「政策の柱をどうするのかが」と併せて、候補者選考が進められています。最低1億円はかかる選挙費用のためのカンパ活動も欠かせません。

「脱原発」は、原発という手段に頼って電気を大量に使ってきた、今の社会を考え直す、という動きにつながっています。そのためには政治も変えていかなければいけないし、まず自分から動いていかなければ変わらない、と気づいた人たちが「緑の党」の旗の下に集まっています。

今まで地方議会では実現してきた1人ひとりの活動によって議員を誕生させる、この動きを国会にもつなげるために、小さな薬をこの夏まで大きく育てていこうと思っております。